

科目ナンバリング		G-LAS13 80007 LJ90									
授業科目名 <英訳>	健康情報学Ⅰ Health Informatics I					担当者所属 職名・氏名	医学研究科	教授	中山	健夫	
							医学研究科	特定教授	高橋	由光	
							非常勤講師	杉森	裕樹		
							非常勤講師	園田	由紀		
							非常勤講師	若尾	文彦		
						附属病院	特定教授	加藤	源太		
							非常勤講師	黒田	聡		
							非常勤講師	藤本	修平		
群	大学院横断教育科目群			分野(分類)	健康・医療系			使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)				
開講年度・開講期	2026・後期		曜時限	金2		配当学年	大学院生	対象学生	全学向		
(医学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)											
【授業の概要・目的】											
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション(リスクコミュニケーション含む)、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。											
教育・学習方法 講義形式と実習											
【大学院横断教育の概要・目的】											
健康と医療を巡る情報の解釈・活用能力である「ヘルスリテラシー」は、万人に共通する必須の社会的技能である。本講義では様々な健康・医療の課題を取り上げ、「ヘルスリテラシー」、そして「ヘルスコミュニケーション」の理解を深める。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 ・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
(変更の可能性があるので開講日に確認して下さい)											
第1回	10月2日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(1)(中山)									
第2回	10月16日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(2)(中山)									
第3回	10月23日	インターネットとe-ヘルス(高橋)									
第4回	11月6日	ベネフィットとリスクのコミュニケーション(中山)									
第5回	11月27日	ナラティブ情報の意義と可能性(中山)									
第6回	12月4日	「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備(若尾)									
第7回	12月11日	質の高い医療情報の集約・共有・普及：根拠に基づく診療ガイドラインを考える(中山・藤本)									
第8回	12月18日	医療におけるデータの二次利用の課題(加藤)									
健康情報学Ⅰ(2)へ続く											

健康情報学 I (2)

- 第9回 12月25日 AI時代の健康情報を考える(中山)
第10回 1月8日 健康情報を巡る話題:テクニカル・コミュニケーションの視点から(黒田)
第11回 1月15日 ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション(杉森)
第12回 1月22日 健康情報ワールドカフェ(中山)
第13回 2月4日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ:MBTI(Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 13時30分~17時30分(園田)
第14回 2月5日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ:MBTI(Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9時~12時、13時~16時(園田)
第15回 2月12日 総合討論・個別発表 「健康情報学Iを履修して」(中山)

「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。

【履修要件】

疫学または根拠に基づく医療(evidence-base medicine: EBM)の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート提出80%、発表20% [素点(100点満点)評価]

【教科書】

講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入(4200円程度)

【参考書等】

(参考書)

中山健夫 著 『健康・医療の情報を読み解く(第2版)健康情報学への招待』(丸善書店,2014年) ISBN:9784621087329

中山健夫 著 『健康情報は8割疑え!:京大医学部のヘルスリテラシー教室』(法研,2021年) ISBN:9784865138160

中山健夫・杉森裕樹 監訳 『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』(丸善書店,2015年) ISBN:9784621089545

中山健夫,藤本修平 編者 『実践 シェアード・ディジションメイキング 改題改訂第2版』(医事新報社,2024年) ISBN:97847849146402

宮原 哲・中山 健夫 著 『治療効果アップにつながる患者のコミュニケーション力 医師との会話・失敗例と成功例をケースごとに解説』(朝日新聞出版,2023年) ISBN:9784023322790

【授業外学修(予習・復習)等】

予習よりも復習に十分時間を取ること

【その他(オフィスアワー等)】

情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【主要授業科目(学部・学科名)】

健康情報学 I (3)へ続く

